

## 令和元年度の施策別事業実績と評価等(事業別)

### 【基本施策1】子どもがスポーツに親しむ機会の充実

事業No.	事業名	所属名	スポーツ振興課
1	【重点事業】子どもを対象としたスポーツ事業の実施		
事業概要	①各体育館等において、子どもや親子が参加できるスポーツ事業(一般公開、教室・講習会、交流機会など)を開催する。 ②「子どもサポートプラン」を実施し、区立プールを中学生以下の子どもに対して無料で開放をする。		
計画目標	拡充	目標に対する評価 (令和元年度末現在)	B:計画目標を達成した
令和元年度 実績	①各体育館等 駒場体育館 21,397人、区民センタービル体育館 52,240人、碑文谷体育館 19,925人、中央体育館 5人 八雲体育館 6,556人、宮前公園庭球場 187人、砧野球場・サッカー場 1,341名 五本木小学校屋内プール 8,057人、碑小学校屋内プール 10,747人、緑ヶ丘小学校屋内プール 13,121人 ②子どもサポートプラン 駒場体育館 1,561人、区民センタービル体育館 3,284人、五本木小学校屋内プール 1,948人、 碑小学校屋内プール 3,118人、緑ヶ丘小学校屋内プール 2,566人		
評価の理由	・親子での参加がよりしやすいように保育付きの教室の実施や、教室事業の対象年齢の設定を広げるなど、各施設で工夫しながら、一般公開、教室・講習会等を適切に継続して実施した。		
課題など	・「子どもサポートプラン」において利用者の増加による利用者同士の接触等、安全上の課題を解決するため、引き続き対応の検討が必要。 ・関係団体と協力して内容の充実及び日程の調整を行い、多くの区民が教室・講習会に参加できるよう検討を継続していく。		

事業No.	事業名	所属名	スポーツ振興課
2	スポーツ観戦事業の実施		
事業概要	スポーツの感動や応援するきっかけとなるよう、トップアスリートの競技を観戦する。		
計画目標	新規	目標に対する評価 (令和元年度末現在)	B:計画目標を達成した
令和元年度 実績	トップアスリート競技観戦事業観戦種目及び参加者数 ・競泳 27人 ・レスリング 41人 ・バスケットボール 39人		
評価の理由	・小中学生等を対象に実施し、トップレベルの競技を競技場等で観戦することで、スポーツへの動機付けを促進し、スポーツに取り組む機運の醸成を図ることができた。		
課題など	・事業を継続するため、関係団体と協議を重ね、協力体制を強化するとともに具体的な種目、日程等の調整を計る必要がある。		

所属名	子育て支援課・児童館		
事業No.	事業名		
3	ティーンズフェ斯坦めぐろ		
事業概要	中高生の視点で文化的イベント・スポーツ的イベント等の企画、大人たちと世代を超えた交流を図り、中高生の社会参加と地域の活性化を図る。		
計画目標	継続	目標に対する評価 (令和元年度末現在)	B:計画目標を達成した
令和元年度 実績	中高生を取り巻く行政内部の連携協力を深めていくため、オリンピック・パラリンピック推進課と連携し、オリンピック・パラリンピック機運醸成事業の一環としてVRフェンシング、ボッチャ、車いすバスケ、義足体験をオリンピック・パラリンピック推進課と中高生実行委員が連携して実施した。  参加者数 606人		
評価の理由	10回の実績を踏まえ、中学校・高校が事業への理解や協力を深めていただく中で、中学生・高校生が生徒会や部活動を通じて継続的な関わりが図れ定着傾向にある。新たな団体も加わり世代を超えたつながりが生まれ、さらに絆を深め若い世代の社会参加と地域の活性化が図れた。2020オリンピック・パラリンピック機運醸成事業の一環としてオリンピック・パラリンピック種目の紹介を通じた中高生との連携が図れた。		
課題など	・各児童館において中高生のニーズの把握を的確に行い中高生向けの事業の充実、利用時間やスペースの確保を図り利用の促進や居場所の拡充を図る。 ・ティーンズフェスタを通じて区内公私立中学校・高校との連携や理解を深め学校を通じた参加・参画を促し更なる地域のネットワークを構築し、地域の育成者や協力団体と連携し中高生の社会参加と地域の活性化を促していく中で魅力ある事業へ繋げていく。 ・青少年を取り巻く関係所管と連携し中高生事業の活性化や中高生を取り巻く諸課題に的確に対応していく。		

所属名	学校運営課		
事業No.	事業名		
4	めぐろ元気あっぷ教室の実施		
事業概要	肥満や体力不足など健康に課題のある児童を対象とした運動教室をめぐろ学校サポートセンター・区内小学校等で年間3期に分けて実施する。学校において児童観察している学校健康トレーナーが主体となって、児童に合わせた運動プログラムや生活プログラムを提供する。		
計画目標	継続	目標に対する評価 (令和元年度末現在)	B:計画目標を達成した
令和元年度 実績	・めぐろ元気あっぷ教室 会場:めぐろ学校サポートセンター、八雲小学校、碑小学校 参加者:第1期 延べ885人、第2期 延べ998人、第3期 延べ1,042人 実施数:9コース各15回 ・夏季水中運動教室 期間:3日間 参加者:延べ153人		
評価の理由	対象となる児童や保護者、また学校関係者への事業の認識が高まり受講者も増えている。また、受講児童の健康改善効果が現れている。		
課題など	異常気象時の保護者との連絡体制を構築しておく必要がある。		

		所属名	教育指導課
事業No.	事業名		
5	東京駅伝開催に係る支援		
事業概要	東京都教育委員会主催の中学生「東京駅伝」大会に、目黒区の中学生を代表して出場し他区市の生徒と競い合うことで、生徒の競争力及び体力の向上を図りつつ、スポーツそのものや自らの体力について考える機会を設ける。		
計画目標	継続	目標に対する評価 (令和元年度末現在)	A:計画目標を上回って達成した
令和元年度 実績	<p>区教育委員会と東京都中学校体育連盟目黒支部、中学校長会との共催により目黒区中学生の代表チームを編成して参加した。区教育委員会の分担として当該大会の参加に係る経費を負担した。</p> <p>選考会実施日：11月16日 目黒区予選会 会場：駒沢公園 参加校：区内11校（区立9校、都立2校） 参加者：42名選出（男女各21名） 大会実施日：2月2日 男子30位・女子33位・総合28位</p>		
評価の理由	大会に向けて練習会や選考会等を行ったことで、生徒の健康増進や持久力をはじめとする体力向上・運動に関する意識向上等につながったから。		
課題など	特になし。		

		所属名	教育指導課
事業No.	事業名		
6	学校における体育活動の充実 ①めぐろ子どもスポーツ健康手帳等の作成・配付 ②体力テストの実施		
事業概要	<p>①子どもを取り巻く社会・家庭環境の変化に伴う基本的な生活習慣の変化を意識しつつ、健康教育を進めていくことが求められる中、子ども自身が自分の健康状態や体力を認識し、目標をもった取り組みに資する教材・資料を提供する。</p> <p>②体育の時間や体育的行事を通じ、生涯にわたり運動に親しむ態度を育てるとともに、体力テストにより子どもの体力や運動能力の課題を明らかにし、指導方法の改善に努める。</p>		
計画目標	継続	目標に対する評価 (令和元年度末現在)	B:計画目標を達成した
令和元年度 実績	<p>① ・「めぐろ子どもスポーツ健康手帳」（全小学生対象）及び「健康の保持増進・体力向上のために」リーフレット（全中学生対象）の修正をするために、体力向上推進委員会（年3回）を開催した。 ・令和2年度に向けた「めぐろ ここカラダ月間」とび「めぐろ ここカラダシート」の検討を行った。</p> <p>② ・令和元年度全校体力テストを実施し、子どもが楽しく継続的に取り組むための指導方法の改善を図った。</p>		
評価の理由	<p>・体力向上推進委員会を立ち上げ、改訂作業を実施した。</p> <p>・「めぐろ ここカラダシート」の内容を検討し、令和2年度当初、全校（園）に配布することができた。</p>		
課題など	<p>・「めぐろ ここカラダシート」については、活用のための年間計画とともに、各月の指導の基となる指導資料の作成を検討していく。</p> <p>・令和2年度は、「めぐろ ここカラダシート」を全校（園）で実施し、体力向上推進委員会で検証する。</p> <p>・令和2年度は、「めぐろ ここカラダシート」を活用して、各教科等と関連付け、体力向上に向けた取組を行い、さらなる体力向上を目指す。</p>		

事業No.	事業名	所属名	学校運営課
7	運動部の部活動(小学校の特設クラブを含む。)における外部指導員等に係る支援の実施		
事業概要	児童・生徒が自らの適性や興味・関心を伸ばし、体力の向上やスポーツを愛好する心を育む機会となる部活動の一層の活性化のため、教育の指導を補完する外部指導員等の確保と有効活用による質の高い指導の充実を図るとともに、大会参加等の公費負担による支援を行う。		
計画目標	継続	目標に対する評価 (令和元年度末現在)	B:計画目標を達成した
令和元年度 実績	部活動数(運動部のみ):小学校 3校3部、中学校9校71部 経費支出:試合参加児童・生徒旅費支出、試合参加費分担金支出、 外部指導員等謝礼支出、部活動合宿参加経費支出、 運動部指導員配置:部活動指導員9人、外部指導員56人 外部指導員全体研修会参加実績(運動部のみ) 春期:4月26日(参加者15人) 秋期:9月19日(参加者25人)		
評価の理由	運動部の部活動指導員の増員配置(3名→9名)を含め、外部指導者の配置を希望する学校に対して、配置することができた。また、外部指導者を対象とした研修会を開催し、より質の高い指導につなげる環境の整備を図った。		
課題など	新型コロナウイルス対策下において、部活動(特設クラブ)はこれまでとは異なる活動を行う必要がある。この中で、児童、生徒がモチベーションを保ち、スポーツを楽しむ環境を維持するために、指導技術のみならず新型コロナウイルス対策を理解し、適切かつ柔軟な指導を行える人材が必要となる。これまでに前例がないことではあるが、引き続き、外部指導者を対象とした研修等を行い、知識、指導力の向上等を図ることとする。		